

「らしき」輝く附属小



第36号 令和8年 3月6日(金) 校長 森内 秀学

歓送の歌のように～送別集会～

歌手 小椋 佳さんが作った「歓送の歌」という曲に、こんなフレーズがあります。

♪ 君を送るこの日まで 一所懸命過ぎるほどの 暮らし こぶし 眼差しどれもが
素晴らしい記念碑 誇りさ
若いからじゃなくて 夢にいどむことで 僕達に別れはないという 心通えば ♪



3/5(木)は、6年生の送別集会でした(左)。個別にお礼の言葉を伝えるA組ならではの演出や、6年生のパートナーに1年生がプレゼントを渡す別れの儀式は、どちらも涙を誘うものでしたが、他の学年の出し物の、思いを伝える豊富なアイデア、魅力ある個の輝き、そして全体の質の高さにも、本当に圧倒されました。

送別集会がこんな場になったのは、6年生の子どもたちが、ある時は自分のために、またある時は友達や後輩のために、一所懸命にがんばっていたことを、みんなが知っていたからです。まさに、「歓送の歌」と重なる心情だったに違いありません。

卒業式まであと4日。大きく羽ばたく6年生を、精いっぱい笑顔で送り出します。

ナイスアイデア！全校遊び

5年生のある学級が、巣立っていく6年生と下級生が直接触れ合う機会を作ろうと、昼休みに行く全校遊びを企画しました(右)。いくつもの部屋に数人ずつに分かれて入った6年生と下級生が、クイズをしたり、ジャンケンをしたり、あっち向いてホイをしたりして楽しむというものです。6年生一人一人が、下級生一人一人と直接触れ合う機会は、実はあまりありません。そうした隙間を突いたアイデアあふれる取組に、6年生は、とっても嬉しそうでした。5年生、ありがとう。



来てます、春！

啓蟄(けいち)を過ぎ、北斗の丘で、見慣れないものを発見しました。左はふきのとう、右はオタマジャクシ。春はもうそこですね。

